

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Meiji京都東山ビル新築工事	階数	地上6F
建設地	京都府京都市東山区耳塚通五条下	構造	RC造
用途地域	商業地域、20M第4種高度地区、第	平均居住人員	94人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、工場、集合住宅、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年12月 予定	評価の実施日	2013年11月21日
敷地面積	919 m ²	作成者	東洋設計事務所
建築面積	784 m ²	確認日	2013年11月21日
延床面積	3,983 m ²	確認者	東洋設計事務所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.6 ★★★★★

環境品質 G (35) vs 環境負荷 L (56)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 (スコア= 2.4)

Q2 サービス性能 (スコア= 2.4)

Q3 室外環境 (敷地内) (スコア= 2.2)

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (スコア= 2.6)

LR2 資源・マテリアル (スコア= 2.7)

LR3 敷地外環境 (スコア= 2.9)

3 設計上の配慮事項		
総合	地域特性に配慮し、敷地内の植栽計画に工夫し、生活環境を考慮した計画とした。	
その他	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
F★★★★の規格に適合した建築材料を全面的に利用することで、空気室環境について配慮した。	京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に準ずる配慮を行った。	敷地境界部分について重点的に緑化を行い、良好な環境を形成するために配慮を行った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
自然エネルギーの変換利用として、太陽光パネルを設置した。	持続可能な森林から算出されたもののうち、地域産木材を使用し、資源削減に配慮した。	敷地境界部分について重点的に緑化を行うことで、敷地外環境との調和を図った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される